

製本のススメ

Vol. 77

梅雨本番！蒸し暑い日が続きますね。今年是一段とクールビズが進みそうですが、ネクタイ・ワイシャツというスタンダードが無くなると、服のセンスも問われるので毎日の服装にも工夫が要りますね。

今回は**綴じ方選びのポイント**の話し（2回目）

無線・中綴・上製・伝票など製本様式には、それぞれに**風格**があります。作る冊子の内容や用途によって加工方法はおよそ決まってくるので、それぞれの特性や束の厚みによって起こる問題点を交えて進めていきましょう。

無線綴

束厚(30頁以上)の冊子に適しており、加工手段も多くアレンジの効く方法です。厚みもあるので、背の角が出し易く中綴に比べると、一段と本らしくなります。カタログから趣味の冊子・報告書等に多く用いられ、折・丁合いだけでなく、ペラ丁合いと言う加工方法もあり、簡易な冊子から重厚な冊子まで、幅広く作れます。

以前は冊子を製本するのに、糸綴りをしていましたが、近年接着剤の進歩によって綴らない(無線)加工が確立しました。現在では、糸綴りの方が珍しいほどです。

さて、アジロ綴じですか？と製本会社から尋ねられた事は無いでしょうか？この加工には**【アジロ】と【ペラ】の2種類の方法があり、それぞれに微妙な違い**があります。

アジロとは、刷本を折る段階で用紙にミシン刃(これは、アジロ専用刃です)を入れて折った物を丁合いしていく方法です。ペラ加工に比べてページ抜けが無く、台数や数量が多い物に向き、またアートやコートなどの塗光紙には、お勧めの方法です。

ペラ加工は、小部数でページの少ない物に向いています。刷本を折る時間が省けいち早く丁合いから仕上げへ進む事ができ、扉の多い冊子では折り丁へ貼込みの作業が省けます。しかし糊との接着面が少なく、ページ抜けの危険性もあります。特に塗光紙には、あまりお勧めできません。

アジロとペラでは、ドブの取り方が若干違います、これについては、何度か書いていますので、思い出して下さい。忘れちゃったという人は、当社へお尋ねください。



Teabreak

大安・仏滅 冠婚葬祭には欠かせない六曜ですが、これは諸葛孔明が戦いの際に吉凶を知るために使った事で広まったと言われていています。さて六曜の意味を知っていますか？大安・仏滅はさておき、先勝「午前中が良く午後は悪い」先負はその逆 友引「午前午後は良く正午のみが凶」赤口「昼だけが良く、朝夕は凶で災難に会い易い」そうです。

by (株) 井関製本